

(9) 平成30年5月



◆のぞきど(除キ戸)森林公園 キャンプ場

のぞきど森林公園は、もともと牧草地として活用されてきました。昭和四十年代以降、農業の機械化や馬から牛へ変わる中、農業から林業の場へと移っていきま

した。このような中、「のぞきど」の自然条件の良さなどから第三次産業への活用が検討され、大桑村の第二次林業構造改善事業の森林総合利用事業により昭和五十年から「のぞきど」の整備に着手し、昭和五十四年に、保健休養の



のぞきど森林公園遠景

場として「のぞきど森林公園 キャンプ場」がオープンしました。



ツクし型のバンガロー

のぞきど森林公園キャンプ場は、開園当初はフィールドアスレチックやフィールドアーチェリー、マッシュルーム型やつくし型のバンガローなどの珍しさからピーク時には年間三万六千人の利用者がいました。その後、年々利用者は減少しているものの、オートキャンプ場の整備などの改善を行いながら、現在は年間一千八百人程度に利用されています。

そんな「のぞきど森林公園キャンプ場」は、標高約一、〇〇〇メートルに広大な敷地を有し、五月には山一面にツツジが咲き誇り、夏にはホタルが飛び、展望台から中央アルプスを一望できる景色と満天の星空を見渡せる自然豊かな場所として、今後の利用促進が期待される場所です。

◆阿寺渓谷

レクリエーションの森に登録さ

れている大桑村の「阿寺渓谷」は、阿寺ブルーとも称されるエメラルドグリーンエメラルドグリーンの清流がとともきれいな渓谷です。

古くは、木曾山の官林がすべて時の権力者の直轄する天領として支配されてきた中で、阿寺山だけは異なり、尾張藩主の隠居料の山として唯一私有財産となったことのある山で、他の木曾山と異なった経緯を辿った「歴史の山」です。昔より良材が茂り、阿寺渓谷での小谷狩り(木材を谷川の水を利用して木曾川の本流まで運ぶ方法)による木材の運搬が行われてきました。

明治三十四年には、阿寺山に日本では初めて軽便軌道四・五キロメートルが敷設され、山作業の物資の運搬が行われ、その後、森林軌道による豆トロ運搬が他に先駆けて始ま



阿寺渓谷 犬帰りの淵

り、大正に初めて日本で初めて森林鉄道用ガソリン機関車が導入されました。

当時の森林鉄道の痕跡は、一部、橋梁等により面影を見ることが出来ます。



阿寺渓谷 森林鉄道跡

◆お問い合わせ

長野県木曾郡大桑村観光協会  
TEL 0264-5514566



中央自動車道中津川ICより国道19号線経由で約1時間